

山田・大谷組が準優勝 関東学生卓球 男子ダブルス



関東学生卓球選手権が7月4日から6日までの駒沢体育館で行われ、男子ダブルスで山田芳宏(商4・千葉経済大附高)・大谷準也(経済3・上宮高)組が2位に入る活躍を見せた。

山田、大谷組がダブルスを組むのは今大会が初めて。2週間程しか練習期間がなく、初戦から苦しい試合が続いた。「試合をしていくうちにかみ合ってきたが、山田先輩ががんばってくれたから決勝まで行けたと思う」と大谷は振り返った。

準決勝で快勝を収め、迎えた決勝戦では埼玉大の張・有本組と対戦。第1セットを11対8で取ったが、2セットからジュースに持ち込まれて落とす場面が見られ、セットカウント1-3で惜しくも敗れた。大谷は試合後、「優勝したかった。どちらかが勝ってもおかしくなかったので、それだけに悔しい」と語った。

また大谷は、シングルスでも阿部淳一(経済2・遊学館高)とともにベスト8入りした。

(青柳 直子・文3)
〔7月15日/ニュース専修15面〕

部活拝見 体育会 サッカー部



先日、サッカー部取材するため、練習グラウンドに向かった。小雨が降る中、多くの部員が秋季リーグ戦に備え、厳しい練習に励んでいた。サッカーはボールを扱うスポーツだが、試合でボールを持つ時間は2、3分。ボールを持たない時、どう動き・ポジションをとるかが試合展開を左右し、それによって最大の魅力である

ゴールが生まれる。

現在、4年生13人、3年13人、2年17人、1年13人の計56人が在籍。練習は週6日、主に生田校舎北グラウンドで1日2時間、汗を流す。練習はトップチームと他の部員に分かれ、基本的なフィジカルトレーニング、チームの戦術面を確認するゲーム形式の練習を多く取り入れている。専属のコーチがいないので選手同士でレベルアップを図る。「コーチも兼ねているので、コミュニケーションの面で難しいと感じることもある。チーム内に競争意識を持たせるため、1対1などの対人練習もしている」と語るのはチームを引っ張る小林隆人主将(文4・真岡高)。

3年前に関東リーグ(2部)から東京都リーグ(1部)に降格。ここ1、2年間はリーグで上位に入るものの入れ替え戦で勝てず、満足のいく結果を残せていない。関東リーグにいれば定期的に天然芝のグラウンドで試合や練習ができる。「関東に昇格するためにリーグ戦で上位に入り、入れ替え戦まで勝ち進むこと」と主将が語る今年の抱負にも力が入っていた。

(桃沢 薫・商3)

[7月15日/ニュース専修15面]

関東学生馬術 3種目総合2位 馬場馬術でまさかの5位



関東学生馬術大会が6月27日から30日までJRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛越で3位、馬場馬術で5位、総合馬術(調教、耐久、余力)で2位となり、3種目総合で2位と惜しくも優勝を逃した。

「人馬ともにピークに仕上げたつもりだったが…」と富沢健悟監督が悔しがるように、今大会は専大らしいプレーが出来なかった。特に2日目の馬場馬術では、ミス連続し、常に上位を獲得していたこの競技でまさかの5位となった。そして3、4日目の総合馬術で2位。関東学生馬術争覇戦(今年5月)で下した明治に優勝の座を明け渡した。

試合後、相田一善主将(商4・宮城農高)は「馬場でのミスが非常に苦しかった。次は必ず勝ちます」と悔しさをにじませながら語ってくれた。

(文・写真 山室綱寛・文2)

[7月15日/ニュース専修15面]